

千葉国際芸術祭 2025 令和 6 年度実施計画書

令和 6 年 1 0 月

千葉国際芸術祭実行委員会

目次

1. 開催概要.....	1
2. アーツフィールド.....	6
3. アートプロジェクト	9
4. 運営体制・中心メンバー（ディレクター・マネージャー）	26
5. 広報.....	33
6. 企業協賛・寄附	37
7. スケジュール.....	38
参考資料1 実行委員会委員名簿・部会委員名簿.....	39
参考資料2 実施済プロジェクト	41

1. 開催概要

(1) 千葉国際芸術祭 2025 が目指していくこと

千葉市の街に内在する自然・文化・人材・歴史などの地域因子を持続的な地域文化や芸術的な価値に高めるべく、市内にアーツフィールド(創造的活動の場)を発掘し、多彩なプロジェクトを実施して、クリエイティブ・プロセスの循環を巻き起こします。市民自らが地域の魅力を発見し自分ごととして未来のビジョンを描くこと、そしてそのビジョンを具現化する多様なアクションを起こし続けるコミュニティを生み出すこと、そしてそのコミュニティの創造的活動を地域住民・専門家・行政の協働で持続性ある活動としてケアしていくことが重要だと考えています。

アートはすべてをつなげる逸脱の創造プロセスです。アートで市民活動をアクティブにしながら、市民参加型芸術祭とすることで、本芸術祭が持続的な地域文化の創造の礎となり、『人づくり』『まちづくり』『未来づくり』に寄与することを目指します。

『人づくり』

どんな世代、立場の人に対しても、その人の心がひらき新たな発見や気づきが起こる瞬間に「意識変容」が生まれます。その気づきを生み出す場をいかにつくり出せるかが重要です。気づきを得る瞬間は、日常と異なる風景だったり、友人に誘われてたまたま訪れたアートのワークショップだったり、人によって様々なきっかけがあるでしょう。本芸術祭では、千葉市内のアーツフィールドで多様な価値観に触れる機会を創出し、市民それぞれの気づきのスイッチが入る瞬間をつくり出し、新しいことにチャレンジする市民プレイヤーを多く生みだしていきます。

『まちづくり』

気づきの瞬間が訪れ、意識が変わった市民の心に発芽した創造性は、新たなコミュニティ形成や地域の課題解決に取りかかるなどの「行動変容」にも繋がります。本芸術祭で実施される様々なプロジェクトを体感し参加する事で市民の経験値も高まり、それぞれの立場でまちを創造的にする行動力が活性化されていくことでしょう。アーティストの創造力と、彼らが行うプロジェクトが市民の行動の変化を牽引し、ひいてはその変化のプロセスがまちづくりの原動力となっていくます。

『未来づくり』

市民の創造力が高まり、まちの創造力とシンクロする時、地域社会全体に影響を与える「社会変容」が起こります。それは「アート×コミュニティ×産業」という新たな関係構

築や創造都市の基盤形成を促し、地域社会において市民活動や企業活動、国際交流活動など多様な活動そのものに新たなエネルギーを与えていきます。未来の千葉市を創造する多くの市民プレーヤー自らが千葉市のエリアケイパビリティ※を高めていくのです。

※エリアケイパビリティとは人々が地域の環境的豊かさを能動的・主体的に高め、その環境が有する資源を用いて地域が質的に豊かになる能力のことです。

(2) 会期

	プレ会期1		プレ会期2				本会期			
	2023(令和5)年度		2024(令和6)年度				2025(令和7)年度			
	7月～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
計画	・基本 計画書		・令和6年度 実施計画				・令和7年度 実施計画		コア 会期	

(3) 主催

千葉国際芸術祭実行委員会

(千葉市、千葉商工会議所、千葉市文化連盟、公益財団法人千葉市文化振興財団、公益財団法人千葉市教育振興財団、千葉市美術館、公益社団法人千葉市観光協会、千葉テレビ放送株式会社、株式会社千葉日報社、日本放送協会千葉放送局、千葉都市モノレール株式会社、国立大学法人千葉大学、株式会社千葉銀行)

(4) 総合ディレクター

中村 政人

(5) テーマ

ひらく 街とところ

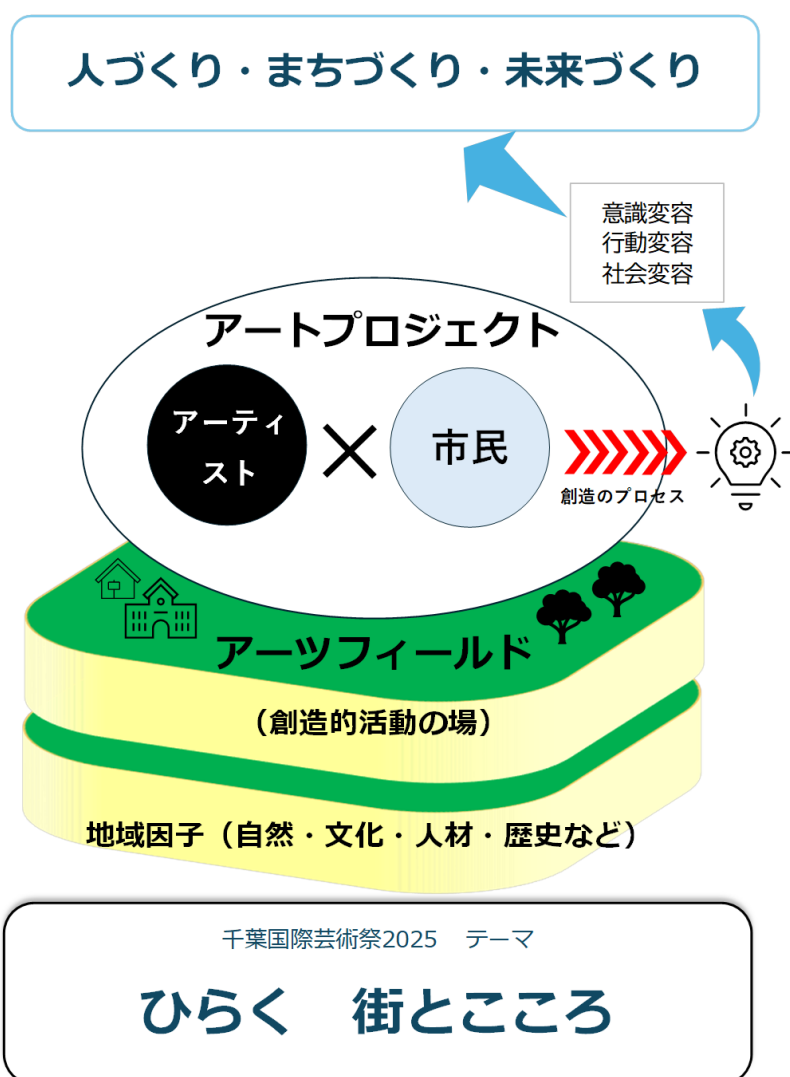
千葉市のまちには、これから成長していくであろう、たくさんの地域因子が眠っています。そこに、皆さんとともにアートプロジェクトを展開することで、地域因子に水を与え、育て、創造的に発芽させていくことができます。

まちに発芽した地域因子が、「自分の言葉表現したい」「新しい一歩をふみだしたい」という潜在的な思いのスイッチを押していくことで、一人ひとりの創造的なところが開かれていきます。

開かれたところで感じるまちは、これまでとは違った風景に映るでしょう。

そのまちをアーツフィールドに、人々が創造的なアクションをおこし、まち全体にエネルギーがひろがり高まっていく。

千葉国際芸術祭 2025 で、そのような未来につなげていきます。



(6) 展開の特徴

① まちなかに「アーツフィールド」を発掘

千葉市のまちに内在する自然・文化・人材・歴史など、地域因子を丁寧にリサーチし、市民に身近な場所でありながら、市民が文化芸術にふれあい活動に取り組む「創造的活動の場」として発展する場所を「アーツフィールド」として、市内各所で発掘します。「アーツフィールド」を芸術祭会場として活用し、そこで様々なアートプロジェクトを展開することで、身近な場所が「創造的活動の場」として変容していく様子を多くの方に体感していただきます。

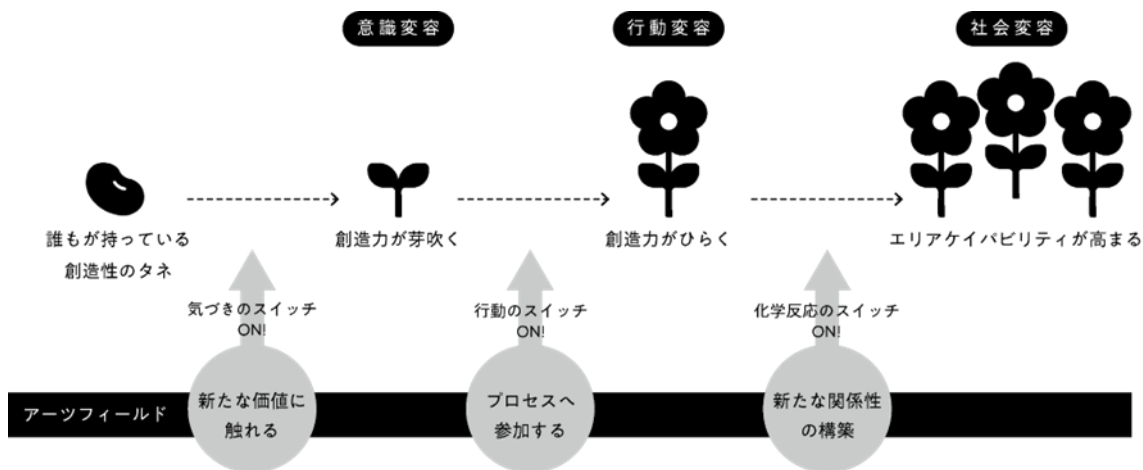
② 様々な「アートプロジェクト」を展開

千葉国際芸術祭 2025 では「アートプロジェクト」を「アーティストや市民の文化芸術活動とアーツフィールドとの出会いにより、人間の創造的な営みを喚起する「出来事」を生み出すもの」と捉えています。表現活動や作品制作などのプロセスに市民が主体的に体験することを重視するアートプロジェクトをアーツフィールドで展開していくことで、アート作品を回遊する「鑑賞型」芸術祭のように瞬間風速的な観光集客ではなく、「市民参加型芸術祭」として市民の創造性を刺激し、心に新たな発見や気づきが起こる「意識変容」を生み出します。

③ 一人ひとりの「行動変容」を喚起

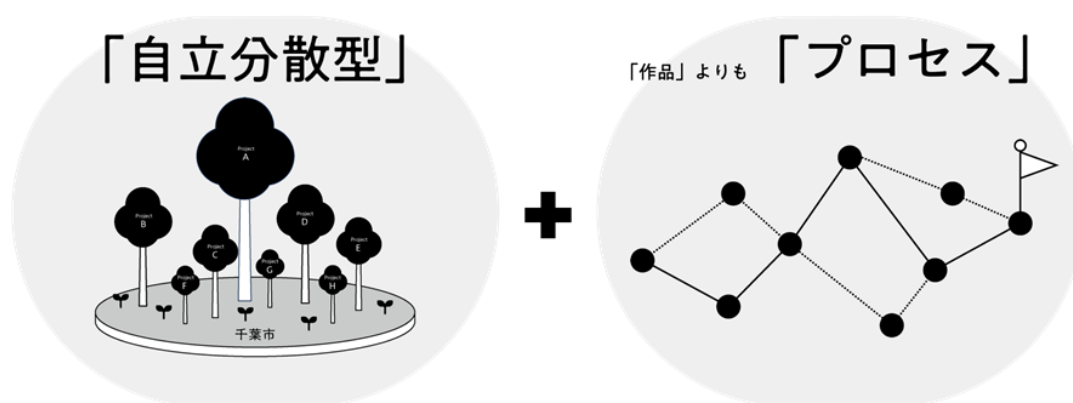
アートプロジェクトを通じて、創造性を刺激された市民の心に生まれた「意識変容」は、新たなコミュニティ形成や地域課題に取り組むなど、市民プレイヤーとして一人ひとりがそれぞれの立場でまちを創造的にしていく「行動変容」に繋がります。

芸術祭を通して経験値を高めた多様な市民プレイヤーが活躍していくことで、市民活動や企業活動、国際交流活動など様々な活動にも新たなエネルギーを与え、地域社会全体が活性化し、市のエリアケイパビリティが高まっていく「社会変容」を起こしていくことになります。



④ 芸術祭継続開催を見据えた地ならし

アーツフィールドにおいて、アーティストが作品制作などの文化芸術活動で積極的に地域と関わり、市民とそのプロセスを共有にする「アートプロジェクト」を展開するにあたって、「その場所を管理する人」「市民プレイヤー」「コーディネーター」「協力者」らで構成されたチームをつくっていきます。本芸術祭を通してチーム力と経験値を高めることで、本会期が終わった後も、アーツフィールドにおいて、地域社会の活性化に繋がる文化芸術活動が継続されていくための基盤づくりを目指します。



2. アーツフィールド

(1) アーツフィールドとは

本芸術祭では、これまで、何気ない日常に埋もれがちな、自然・文化・人材・歴史などのその場所ならではの潜在的な魅力をもった地域因子をアーティスト目線で丁寧にリサーチを行なってきました。

「アーツフィールド」とは、見出した地域因子を持続的な地域文化や芸術的価値に高めるべく、多様なアートプロジェクトを展開することで、その場所が本芸術祭後も市民が文化芸術にふれあい活動する「創造的活動の場」として発展する可能性をもつ場所のことを称しています。

これまで文化芸術活動の場として活用されてこなかった身近な思いがけない場所が、アーツフィールドとして、本芸術祭で活用していくことで、市民の地域への誇りや愛着に繋げていくことができると考えています。

(2) これまで発掘したアーツフィールド

すでに多数のアーツフィールドを見出しています。これらのアーツフィールドで、令和6年度のプレ会期では様々なアートプロジェクトを展開します。

また、本会期である令和7年度まで、引き続き、丁寧に市内のリサーチを重ねて、新たなアーツフィールドの発掘の可能性も探っていきます。

①中央区市場町

この街は現在、街を支える担い手の世代交代を迎えており、街に対する価値観も変革の時期にあると感じました。また、地元出身のアーティストも拠点を構えるなど、クリエイティブなエリアとして盛り上がる可能性を秘めています。

アーティストが市場町をフィールドに、アート活動をとおして住民たちと関係性を丁寧に築き、地域の歴史や文化を大切にしながら新しい表現に挑戦するアートプロジェクトを展開することで、街の中で次代のリーダーシップを担う人たちを勇気づけるとともに、市場町のエリアの活性化と新たなコミュニティ意識を生み出していきます。

②花見川周辺

日本の高度成長期の人口増加を支えてきた花見川団地は、近年はリノベーション等により、若い世代の新規入居者も増えており、昔からある自治会や商店街振興組合以外に、団地での新しいライフスタイルを提案し活動する団体も立ち上がっています。

アートプロジェクトを展開することで、団地内外の住民や団地内で活動する学生が運営に携われる場を設け、新旧住民の新たな交流の機会の増進や、団地内の新たなコミュニティの形成に繋がっていきます。

また、川の水辺を中心としたなりわいやコミュニティの発展は減速しつつありますが、現代でもそのポテンシャルは大いに期待できます。花見川の水辺空間が、地域コミュニティ拠点として、また賑わい創出の場となるよう、アートプロジェクトを展開していきます。

③千葉市動物公園

少子高齢化や余暇の過ごし方の変化など、社会構造や人々の価値観が急速に変わりつつある現在において、千葉市動物公園では、市民の憩いの場として、また千葉市を代表する観光資源として、その在り方を模索しながら、様々な新しい取組みに挑戦しています。

千葉市動物公園で、動物園の空間的特徴を活かしながら、来園者のみならず動物公園で働く方々の創造性や感性を刺激するようなアートプロジェクトを展開することで、千葉市動物公園の新たな魅力を浮き彫りにしていきます。

④千葉県こども病院

院内で創造的な表現の場を提供し、アーティストやキュレーターのガイダンスのもと、子どもたちが自由に芸術活動に取り組める場を設け、社会との繋がりが薄れてしまいがちな子供たちに、アートプロジェクトでの作品制作を通して社会との繋がりを感じてもらいたいと考えています。また、病院の職員が準備の過程から携わることができるアートプロジェクトを展開することで、厳密な感染症対策のもとで職員の交流の機会や場が制限されてきたなかで、世代や専門分野を超えた同僚同士の心の繋がりにも寄与していきます。

⑤千葉市役所周辺

千葉市役所新庁舎は、「まち」と「みなと」をつなぐシティホールとして、市民の憩いの場である縁側テラスや屋上庭園、イベントが開催できる市民ヴォイドなど、人が集い新たな体験も生まれる場を目指しています。また、まちに賑わいを創出する社会実験も行われるオープンスペースとして、国道357号の上部空間も近接しています。

アートプロジェクトを展開し、空間に彩を与えることで、それまではこの場所を訪れてみようと思わなかった人にも空間の魅力を感じてもらい、新たな体験や活動に繋げていきます。

⑥市内小学校アフタースクール

小学校の放課後において、保護者の就労状況等にかかわらず、希望するすべての児童に「多様な体験・活動の機会」を提供するアフタースクールを、アートプロジェクトの展開場所として活用することで、多くの子ども達に気軽に文化芸術にふれる機会を提供することができます。また、子どもが成長過程において、地域の象徴ともいえる学校で、自由な表現を楽しめるアートプロジェクトを体感することは、将来、地域での文化芸術活動の広がりにも寄与することも期待できます。

⑦千葉駅周辺

「そごう千葉店」では学生や住民と連携しながら、公共空間を活用して、新たな出会いや体験が楽しめるイベントを開催するなど、周辺地域を結ぶ、居心地の良い空間づくりに取り組まれています。また、まちの中心部を流れる葭川の近くには、浮世絵から現代アートまで多彩な展示やアートを気軽に楽しめるワークショップなどが開催される「千葉市美術館」、区役所・子ども交流館や科学館・プラネタリウムなど、様々な機能を集約し、まちと人を繋ぐ「きぼーる」など、こどもから大人まで、市内外から多くの人が集います。

これらのエリアでアートプロジェクトを展開し、さらに多くの方々に訪れていただくきっかけとなることで、まちの賑わい創出につなげていきます。

⑧西千葉

西千葉は、大学や高校、小中学校、幼稚園といった多数の教育機関が集積しており、学生から親しまれる店舗や地元住民が集う公園や広場が並ぶ街並みもあります。また、西千葉に近接するエリアにおいて、教育・文化・人材など、新旧の多様な地域因子が存在しています。

それぞれの地域因子を丁寧につなぎながら、子どもから大人まで、幅広い層にアプローチするアートプロジェクトを展開することで、新しい体験や様々な学びを得ることができるエリアとしていきます。

(3) アーツフィールドの広がり

令和6年度プレ会期では、令和5年度プレ会期から引き続き、発掘したアーツフィールドで、その場ごとの魅力ある資源を見つめなおしながら、それらを活かしたアートプロジェクトを実施していきます。

令和7年度の本会期では、個々のアーツフィールドの内から外にもまなざしを広げ、近接するアーツフィールドとゆるやかに連動しながら、相乗効果により互いの魅力や創造性を高めあうことを目指していきます。

同時に、主体的にアートプロジェクトに参加している市民はもちろん、地域の住民の方々、市内外からの来場者が、エリア内で多数の創造性と感性を刺激するアートプロジェクトに出会えるよう、各導線も意識した展開を検討していきます。

3. アートプロジェクト

(1) アートプロジェクトとは

テーマを『ひらく 街とところ』と掲げる千葉国際芸術祭 2025 においては、アートプロジェクトを『アーティストや市民の文化芸術活動とアーツフィールド(創造的活動の場)との出会いにより、人間の創造的な営みを喚起する「出来事」を生み出すもの』と捉えています。

自然や歴史、人材などの地域因子の魅力をアーティスト目線で捉えなおし、市民と作品制作などのプロセスを共有して「出来事」を生み出すアートプロジェクトをアーツフィールドで展開することで、市民の心に「意識変容」が起き、その「出来事の体験」の積み重ねは、新たなコミュニティ形成や地域課題の解決に取り組むなどの「行動変容」に繋がります。

(2) それぞれのアートプロジェクトがもつねらい

それぞれのアートプロジェクトが生み出す「出来事」には、「文化芸術とまちづくり」や「人材育成」や「企業連携」を視野にいれています。

現時点では、一つのねらいを視野にいれているアートプロジェクトも、令和7年度本会期にむけて内容を深めていくなかで、ねらいが複数に増えていくことを目指しています。

①文化芸術とまちづくり

- ・エリアとしてのアーツフィールドで展開するアートプロジェクトに、主体的に参加する市民はもちろん、通勤や通学も含め、そこで日々の暮らしを送る方々の感性と創造性も刺激していける展開としていきます。
- ・千葉市美術館の所蔵作品であるデジタルアーカイブ等を活用した取組を地域で展開し、市内外に誇る美術館がある街として広く発信していきます。

②人材育成

- ・アーティストや専門家から文化芸術が持つ魅力や可能性を学ぶ機会をつくり、文化芸術活動に興味を持つ人材の育成に繋がります。また、地域の課題解決に文化芸術をどのように活かしていくことができるのかを共に考え、実践に繋がります。
- ・将来を期待されるアーティストが市内で継続して文化芸術活動を展開していくきっかけとなるよう、様々な場や機会を提供していきます。

③企業連携

市内を拠点とする企業等との連携により、企業の持つ技術や知財、社会貢献活動を文化芸術と結び、芸術祭の裾野を広げ、まちに新たな活力を生み出します。

【令和6年度プレ会期におけるアートプロジェクト一覧】

アーツフィールド	アートプロジェクト	アートプロジェクトのねらい		
		文化芸術とまちづくり	人材育成	企業連携
中央区市場町	① 千葉国際芸術祭2025プレ企画 ラウンドテーブル02	○	○	
千葉駅周辺 / 花見川	アーティスト藤 浩志プロジェクト	○	○	○
	② かえっこバザール			
西千葉	アーティスト西尾 美也プロジェクト		○	
	③ (仮称)ちびっこテラーワークショップ			
アフタースクール / 千葉市役所周辺 / 千葉駅周辺	アーティスト栗原 良彰プロジェクト		○	
	④ わたしの千葉市！テーマパークの模型を作ろう！			
令和6年度は花見川	⑤ 天馬船プロジェクト テスト航行	○	○	
千葉駅周辺	⑥ 先生たちのアートアンデパンダン展		○	
千葉市動物公園	⑦ (仮称)千葉市動物公園プロジェクト		○	
千葉市役所周辺	⑧ (仮称)R357プロジェクト	○		
いずれかの アーツフィールド	⑨ 公募プロジェクト (仮称)ソーシャルダイブ	△	△	△
	海外アーティスト 千葉市若手アーティスト			
中央区市場町	⑩「アーツうなぎ」プロジェクト	○		
緑区辺田町	千葉県こども病院アートプロジェクト		○	
	⑪ こども病院に芸術祭がやってくる！病院でアートプロジェクトを展開するためのプレ・ワークショップ			
千葉市役所周辺	⑫ (仮称)千葉市美術館デジタルアーカイブ活用プロジェクト	○		
市内各所	⑬ 中村総合ディレクターが会いに行くシリーズ		○	

【補足】

「⑨アーティスト公募プロジェクト」はこれから選定するアーティストの個性と展開するアーツフィールドによって、ねらいが決まるため、現段階では「△」としています。

(3) 各アートプロジェクト

① 千葉国際芸術祭 2025 プレ企画 ラウンドテーブル 02

令和5年度プレ会期と同様に、公開形式のトークイベントとして開催します。観覧する方々にも、質疑応答等により議論に参加していただくことを予定しています。

●実施のねらい

本芸術祭の最初のプレ期間であった令和5年度に、中村総合ディレクター・千葉市美術館長・アーティスト藤氏・千葉市長を登壇者にトークイベント「ラウンドテーブル 01『なぜ千葉市に芸術祭が必要なのか?』」を開催しました。

来年度に本会期を迎える令和6年度プレ会期ではトークイベント「ラウンドテーブル 02」とし、市民と市内で活躍するアーティストやクリエイターを迎え、総合ディレクターや企画運営に携わるディレクターらとともに、本芸術祭を市民参加型芸術祭としてどのように実現していくことができるか、など、それぞれの思いやビジョンを議論し、本会期に向けて目指すべき方向性を共有していきます。

●開催概要

参加者：市民・総合ディレクター・企画運営ディレクターほか

会場：アーツうなぎ ※P21に詳細掲載（千葉市中央区市場町9-14）

日時：令和6年10月26日（土）

●令和7年度展開(予定)

芸術祭参加アーティストや作品制作過程に参加いただいた市民の方々などを交えたラウンドテーブルを開催。



会場となる「アーツうなぎ」にて
ディレクター陣らとボランティアスタッフによる大掃除の
様子



前回の「ラウンドテーブル 01」の様子

アーティスト藤 浩志プロジェクト

② かえっこバザール

「かえっこ」とは、遊ばなくなったおもちゃを持ち込み「カエルポイント」に交換する仕組みを使って、子どもたちが自発的にさまざまな活動や体験をする「遊びの場」をつくり出す仕組みです。また、「カエルスタッフ」として、子どもたちに会場で運営に参加してもらう機会も設けます。

●実施のねらい

そごう千葉店地階=センシティガーデンでは、「周辺地域をむすぶ、居心地の良い空間づくり」として様々な取組みが開催されています。また、花見川団地では、近年、団地内外の人々が参加して楽しめる活動が展開されています。このような場で多くの人々が集い楽しめる「かえっこ」を実施することで、その場所が未来にむけて更に「ひらかれていく」ことを目指します。

また、「かえる」に込められた複数の意味（変える／還る／換える など）について、考える機会となり、福祉やコミュニティ活動、環境など、地域課題の解決の糸口にもつながります。

●開催概要

①かえっこバザール in そごう千葉店

②かえっこバザール in 花見川団地

会 場：①そごう千葉店地階=センシティガーデン（中央区新町 1000）

②花見川団地商店街内「団地テーブル」（花見川区花見川 3-20）

日 時：①令和 6 年 10 月 5 日（土）※ ※千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト／千葉大学環境

②令和 6 年 11 月 9 日（土） ISO 学生委員会「こどもエコまつり」同時開催

対 象：こどもから、こどもの心をもった大人まで



そごう千葉店地階= センシティガーデン
提供：そごう千葉店



花見川団地商店街内候補地「団地テーブル」
(2024 年 10 月 Open 予定)

●令和 7 年度展開(予定)

そごう千葉店や花見川団地において引き続き開催していきます。

●アーティスト紹介 藤 浩志（ふじ ひろし）



1960 年鹿児島生まれ。奄美大島出身の両親の影響で大島紬周辺で遊ぶ。京都市立芸術大学在学中演劇に没頭した後、地域をフィールドとした表現を模索。同大学院修了後パプアニューギニア国立芸術学校に勤務し原初的表現と文化人類学に出会う。バブル崩壊期の再開発業者・都市計画事務所勤務を経て土地と都市を学ぶ。「地域資源・適性技術・協力関係」を活用した美術表現を志向し、全国各地でプロジェクトを試みる。

アーティスト西尾 美也プロジェクト

③ (仮称) ちびっこテーラーワークショップ

令和5年度プレ会期では単発での開催でしたが、令和6年度プレ会期から令和7年度本会期にむけて、まちのなかで継続して複数回のワークショップを開催することで、裁断ハサミや針、ミシンの使い方を学び、「ちびっこテーラー」として、オーダーメイドの洋服を作品として作成します。

●実施のねらい

大人になるにつれて、その時の自分を取り巻く社会が、その都度「こうであるべき」と自分に求める装いをすることに、無自覚となり、疑問をもつことが少なくなっていくます。

本ワークショップで古着を使って、自由に創造的な造形を行うことで、「服を着る方法の多様化」や「均質した価値観からの開放」を図っていきます。

参加した人も作品を観た人も、「洋服を着る」という日常行為が、創造性あふれる自由な表現活動であることを体感することができ、装う自分と社会との関係性に広がりが生まれます。

●開催概要

会 場：西千葉工作室等、西千葉エリア ※調整中

日 付：令和6年12月～令和7年2月末 ※調整中

対 象：小学3年生以上～大人

●令和7年度展開(予定)

本ワークショップを継続して実施し、アーティストとともに作品展示を展開したり、本芸術祭を契機にワークショップ参加者が仕立てた服を発表していきます。



令和5年度ワークショップ「くふうく」の様子（令和5年3月17日 千葉市美術館ワークショップルーム）

●アーティスト紹介 西尾 美也（にしお よしなり）



Photo by Natsumi Kinugasa

1982年、奈良生まれ。東京藝術大学美術学部先端芸術表現科准教授。文化庁芸術家在外研修員（ケニア共和国ナイロビ）などを経て、装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目したプロジェクトを国内外で展開。「六本木アートナイト 2014」ではテーマプロジェクトを手がけ、六本木ヒルズ、東京ミッドタウン、国立新美術館の3ヶ所で古着を再利用した大規模な作品を発表した。ファッションブランド「NISHINARI YOSHIO」を手がける。

アーティスト栗原 良彰プロジェクト

④ わたしの千葉市！テーマパークの模型を作ろう！

こどもたちが自分だけの千葉市の魅力＝地域因子を発掘し、アーティストが事前に用意した様々なパーツと共に、図案をスキャンしてカットする事のできるカッティングマシン等を用いて制作した一人ひとりのオリジナルのパーツを用いて、自分だけの建築模型を仕上げていきます。本会期に向けて複数ワークショップを開催し、子ども達の作品 200 個以上集めることを目指しています。

●実施のねらい

未来を担う子供たちが、身近な自然・歴史・文化などを事前にリサーチして、作品として表現することで、大人が気づかない新しい地域因子が発掘される可能性があります。

また、市内アフタースクール※1 を会場とすることで、子ども達が気軽に参加しやすくなるとともに、地域の象徴ともいえる学校で、自由な表現を楽しめるアートプロジェクトが展開されることは、将来、地域での文化芸術活動の広がりに寄与することも期待できます。

※1 小学校の放課後において、保護者の就労状況等にかかわらず、希望するすべての児童に「安全・安心な居場所」と「多様な体験・活動の機会」を提供するために、学校内の施設を活用して子どもたちが過ごす場を確保する千葉市の取組です

●開催概要

会 場：千葉市内小学校アフタースクール他

日 時：①令和 6 年度 夏休み期間 ※2

②令和 6 年度 秋休み期間

10/11 きぼーる 子ども交流館(定員 16 名)

10/15 市役所 市民ヴォイド(定員 20 名)

これ以降も開催予定。

対 象：千葉市内小学生（上記②では中学生も含む）



作品イメージ

※2：高浜海浜小、西小中台小、川戸小、若松台小、高浜第一小、千城台みらい小 で開催

●令和 7 年度展開(予定)

栗原氏が人も回遊できるような規模感でのテーマパーク模型作品を制作予定です。そこには、プレ会期で子どもたちがワークショップで制作した 200 個以上の模型も展示します。

●アーティスト紹介 栗原 良彰（くりばら よしあき）



1980 年 群馬県生まれ。アーティスト。東京藝術大学特任准教授。法政大学兼任講師。アーティストは、自由の体現者であるべきだという考えを持ち、従来のアートの制度に捕らわれることなく、アートが社会に対してアクチュアルに機能することを目的に活動している。特定の表現スタイルにこだわらず、彫刻や絵画、インスタレーション、ビデオ、パフォーマンス、映画、ワークショップなど、あらゆる表現方法で制作活動を行なっている

⑤ 天馬船プロジェクト テスト航行

令和 6 年度のプレ会期では、専門家や地域で水辺を中心に市民活動を行っている方などで構成される「天馬船プロジェクトチーム」(本プロジェクトに特化した実施チーム)を立ち上げ、市内の川で試走を行い、令和 7 年度の本会期で実走する河川を選定します。

●実施のねらい

ミニ天馬船への旗つけ、運搬、再利用のための洗浄など、本会期でのイベント実施に向けた段階ごとにプログラムをつくり、ボランティアを募って住民が参加する場を設けます。単なるイベントとしての盛り上がりには留めず、地域と連携しながら、「水辺」の環境について考え、身近に感じてもらい、住民にひらかれた場にしていきます。

令和 7 年度の本会期では、ミニ天馬船一艘に 1,000 円の寄附で誰でも参加することができる「ドネーション」形式での開催を検討していきます。寄附での参加により、芸術祭後も地域での持続的なイベントとして今後も定着していくことを目指します。

●開催概要

実施チーム：天馬船プロジェクトチーム

会 場：花見川で試走

日 時：令和 6 年 11 月 20 日(水) ※調整中
(荒天予備日として 12 月 7 日(土))



試走候補の一つ：花見川

●令和 7 年度展開(予定)

- ・ 木造和船を模した長さ約 30 cm のミニ天馬船を一万艘浮かべ、川の流れにまかせて無数の小さな船が進む風景を楽しみます。
- ・ イベント当日は、水辺に観覧拠点を設置すると同時に、YouTube でアートプロジェクト準備段階の様子も含めライブ配信を行います。
- ・ 本会期にむけて、ミニ天馬船一艘に 1,000 円の寄附で誰でも参加することができる「ドネーション」形式で開催していきます。

天馬船プロジェクトとは：そもそもは氷見で漁業用に活用されていた木造和船の文化的保存と漁船技術の伝承を目的に始まったアートプロジェクトであったが、現在は、減速しつつある水辺を中心としたなりわいやコミュニティの発展に寄与するべく、水辺の活性化・浄化活動を応援する、地域を巻き込んだアートプロジェクトとして、水辺を地域のコミュニティの拠点としていくことを目指している。

⑥ 先生たちのアートアンデパンダン展

アンデパンダン展とは、自由な表現活動を応援するべく、美術・音楽・パフォーマンスなどのジャンルを問わず、作品を広く公募して展示する展覧会です。令和 6 年度のプレ会期では、市内学校の教員や退職教員を対象に出展を募ります。令和 7 年度の本会期では、対象を限らず公募し、市民の誰もが自由な表現で出品することができる展覧会とします。

●実施のねらい

普段、教員の皆様は、専門科目から幅広い教科まで、生徒がその科目について理解と興味を深めることができるよう、指導内容について日々ご研究をされていることと思います。

令和 6 年度のアートアンデパンダン展では、普段の指導内容から距離をおいて、先生自身が自由な発想でご自身を表現した作品を出展する場とし、先生としてではなく、表現者としての姿を多くの方に観ていただきます。

令和 6 年度は、先生が一人の表現者として制作した作品をとおして、こころを開いて自分を表現することの素晴らしさを観覧者に伝えていき、令和 7 年度の「誰でも自由な表現」でのアートアンデパンダン展の開催につないでいきます。

●開催概要

会 場：きぼーるアトリウム（千葉市中央区中央 4-5-1） ほか

募集期間：令和 6 年 9 月 2 日（月）～12 月 23 日（月）

展示期間：令和 7 年 2 月 17 日（月）～3 月 4 日（火）予定

うち展示期間は 1 週間程度

対 象：教科を問わず、千葉市内の小・中・高・養護学校の
常勤・非常勤の教員（退職教員含む）



きぼーるアトリウム

●令和 7 年度展開(予定)

子供から大人まで、千葉市に在住・在勤・在学されている方はもちろん、千葉市出身の方などからも応募を受け付けます。

⑦（仮称）千葉市動物公園プロジェクト ※調整中

広大な敷地と自然豊かな千葉市動物公園にて、令和 6 年度のプレ会期では園内で働く方々や動物公園を訪れた方々に対して、動物と人間の生態を再考するような作品展示やワークショップを実施します。

●実施のねらい

千葉市動物公園は、千葉市を代表する観光施設として、市民の方々の憩いの場として、教育学術関係施設として、日々様々な取組をされています。本芸術祭において、千葉市動物公園をリサーチするなかで、上記の役割以外に、アート活動の場としても大きな可能性を見出しました。普段、動物とのふれあいや学術的な観察などを目的に動物公園を訪れる方々が、その場でアート作品等に触れることで、人間とは何か、動物とは何か、どちらかの視点に偏ることなく、俯瞰した視点や普段の立場と真逆の新しい視点を得ることができる場としていきます。このことは、千葉市動物公園アートプロジェクトに限らず、文化芸術活動を通して、一人ひとりの心が多様な価値観を受け止めていくことのプロセスで活かされていくことができると考えています。

●開催概要

会 場：千葉市動物公園（千葉市若葉区源町 280）
日 時：令和 6 年 12 月～令和 7 年 2 月 ※調整中
対 象：動物園来場者、動物園の職員やスタッフ



展望デッキより新設の平原ゾーンを望む

●令和 7 年度展開(予定)

令和 6 年度の実績を踏まえて、複数のアートプロジェクトを実施していきます。

●アーティスト

これから選定していきます。

⑧（仮称）R357プロジェクト ※調整中

賑わいを創出するための社会実験も行われている国道357号の上部空間で、ストリートカルチャーを体感できる、作品制作やワークショップなどを実施します。

●実施のねらい

ストリートカルチャーは、ヒップホップやスケートボードから、ファッションやデザインなどのアートまで、幅広い領域に広がりがあります。

千葉市は、世界最高峰のアクションスポーツ競技会が開催されるなど、スケートボードやBMXなどのアクションスポーツの聖地として認知度を高めており、アートの領域のストリートカルチャーが新たに盛り上がる可能性を感じています。

国道357号の上部空間を、ストリートカルチャーを感じる空間としていくことで、子どもから大人まで、新しい表現活動の場となっていくことを目指していきます。

●開催概要

会 場：国道357号上部空間（千葉市中央区千葉港1-1）

日 時：令和6年11月～令和7年2月 ※調整中

内 容：

市役所前の国道357号を地下化したために生まれた上部空間の利活用方法として、アートプロジェクトや千葉市に内在するストリートカルチャーの力で彩りある空間に生まれ変わらせるプロジェクトです。人々が集う場所へと変容させます。ストリートカルチャーとも親和性の高いアーティストを選考し、千葉市の新たな名所へと歩みを進める機会をつくれます。

●令和7年度展開（予定）

令和6年度の実績を踏まえ、展開していきます。

●アーティスト

これから選定していきます。



国道357号上部空間敷地内建屋

⑨ 公募プロジェクト

(仮称) ソーシャルダイブ

アートやデザイン、パフォーマンス、メディアアート、映像、音楽などジャンルを問わず、「部門 1：海外アーティスト編」は海外在住の外国籍のアーティストを芸術祭参加アーティストとして、「部門 2：千葉市若手アーティスト編」は千葉市出身の若手アーティストを芸術祭参加アーティストとして、令和 6 年度にそれぞれ募集・選考を行います。

選考したアーティスト（個人・グループを問わない）と、各アーツフィールドとの親和性も考えながら、令和 7 年度の本会期に向けて具体的なプランについて調整し内容を決定していきます。

●実施のねらい

本公募プロジェクトで選考されるアーティストには、千葉市のまちにダイブし、地域と深く交わる作品やアートプロジェクトを実施することが求められます

そのため、地域や様々なコミュニティとの関係性を築きながら、まちの歴史や文化と多様な価値観に光をあてるアート活動ができる、発想力と方法論をもったアーティストを発掘していきます。

このようなアーティストが、令和 7 年度の本会期において、様々なアーツフィールドで丁寧にアートプロジェクトを展開していくことで、アート活動が、人々が集うきっかけや新たなつながりを創出したり、地域課題の解決の一助になることを、多くの方々に体感していただきます。

●開催概要

募集期間：

令和 6 年 10 月 21 日（月）～令和 7 年 1 月 5 日（日）

対象者：

〔部門 1：海外アーティスト編〕 海外在住の外国籍アーティスト 9 名（組）

〔部門 2：千葉市若手アーティスト編〕 千葉市出身若手アーティスト 5 名（組）

※千葉市在住、在勤、出身等、市にゆかりのある方／40 歳以下／国籍問わず

選考・公表時期：

〔部門 1：海外アーティスト編〕 審査発表 令和 7 年 1 月下旬

〔部門 2：千葉市若手アーティスト編〕 一次審査発表 令和 7 年 1 月下旬

最終発表 令和 7 年 2 月下旬

滞在時期：

令和 7 年度以降、作品等の準備及び制作等に当たって、一定期間市内に滞在するなど、地域やコミュニティとの関係性を深めていくこと。

[部門1：海外アーティスト編]

来日後、所定の期間千葉市内にアーティスト・イン・レジデンス型で滞在できること

[部門2：千葉市若手アーティスト編]

千葉市内に通うことができること

●令和7年度展開(予定)

選定したアーティストによる作品制作やプロジェクトを実施するとともに、芸術祭のトークイベントへの登壇者としての参加もはかっています。

⑩「アーツうなぎ」プロジェクト

かつては老舗の料理店として多くの方に愛された中央区市場町の旧店舗「うなぎの安田」(2014 年まで営業)を千葉国際芸術祭 2025 の活動拠点と位置づけ、運営側の事務所機能や、芸術祭の様々な情報を集積し発信する場として活用していきます。令和 6 年 6 月には総合ディレクターをはじめ芸術祭の運営側とボランティアが室内の清掃を行い、現在、内部の改装作業に着手しています。

●実施のねらい

市場町には県庁の移転に伴い形成された商店街があり、かつては賑わいのある通りがありました。そのなかでも「うなぎの安田」は市場町に賑わいがあった頃を思い起こすことができる場所の一つでもあります。また、現在の市場町は、地元出身のアーティストが活動拠点としたり、地元をひっぱり世代が変わったりと、まちとして変化していく可能性を秘めています。

市場町をアーツフィールドとし、かつて繁盛した旧店舗を芸術祭の活動・発信拠点として様々な人々が集う場所へと変容させていく本アートプロジェクトを核に、まちの歴史や文化を活かしながら新しい表現に挑戦するアート活動が展開されていくことで、市場町というエリアが芸術祭をきっかけに、「ひらかれていく」ことを市内外に発信していきます。

●開催概要

会 場：「旧 うなぎの安田」(千葉市中央区市場町 9-14)

予 定：

[令和 6 年 10 月末]

2 階を芸術祭運営の事務拠点として活用

[令和 7 年 1 月]

1 階を芸術祭インフォメーションの場としての機能を持たせるなど、市民に広く公開していく



「旧 うなぎの安田」外観

●令和 7 年度展開(予定)

インフォメーションセンターとしての機能だけでなく、様々なトークイベントやワークショップなどの活動場所としても活用していきます。本会期終了後も、市民に開かれた場所として、継続していくビジョンを持っています。

千葉県こども病院アートプロジェクト

⑪ こども病院に芸術祭がやってくる！病院でアートプロジェクトを展開するためのプレ・ワークショップ

対象を、お子さんとその家族の方々、また、院内で働く様々なスタッフに限定し、ワークショップを実施します。

本アートプロジェクトの実施成果は、令和7年度の本会期中に公表していきます。

●実施のねらい

病院では、治療を受けるお子さんからご家族、病院のスタッフまで、様々な方が日々の時間をすごされています。

病院にいる皆さんと一緒に、それぞれの立場を超えて、心が和み、温かい繋がりを感じることができるようなアートプロジェクトを展開していくことで、病院のなかに創造的活動の場を生み出していけたら、と思っています。

令和6年度は、まずは、アート活動の楽しさや可能性を感じてもらい、令和7年度の本会期に向けて「みんなで一緒に楽しもう」という思いを院内で共有することができるようなアートプロジェクトを展開していきます。

●開催概要

① 講師：西原 珉 パペットと話そう／ジオラマのにわをつくる ※いずれかを予定

② 講師：中村 政人 アートプロジェクトをするための準備運動！

会 場：千葉県こども病院（千葉市緑区辺田町 579-1）

日 時：令和6年12月～令和7年2月の間にワークショップ2回予定

対 象：①患者様とご家族 ②病院スタッフの皆様

●令和7年度展開(予定)

アーティストが一定期間滞在し作品を作り上げる、公開制作型、滞在型での作品制作ができるよう、様々な検討や協議を重ねていきます。患者や家族の方が参加しアーティストと共に作品を作り上げるインスタレーション作品の制作も検討を続けています。

●講師紹介

①西原 珉（にしはら みる）



東京藝術大学美術学部卒業。キュレーター/心理療法士。1990 年代の現代美術シーンで活動後に渡米し、ロサンゼルスでソーシャルワーカー兼臨床心理療法士として働く。家族療法、認知行動療法を中心に多くのアプローチを実施し、個人・グループに心理療法を行うほか、シニア施設、DV シェルターなどでコミュニティを基盤とするアートプロジェクトを実施。2018 年に日本に戻り、アートとレジリエンスに関わる活動を行う。2021 年 4 月より秋田公立美術大学で教鞭をとり、また国際美術展シリーズ「SPRING 2021」「SUMMER 2022」、展覧会「When we talk about us,」（2023）、国際芸術祭「東京ビエンナーレ 2023」を手掛ける。現在、秋田市文化創造館館長、東京藝術大学先端芸術表現科准教授。

②中村 政人（なかむら まさと）



1963 年秋田県大館市生まれ。アーティスト。東京藝術大学絵画科教授、副学長。東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻壁画修了。大韓民国弘益大学大学院西洋画科修士課程。

「アート×コミュニティ×産業」の新たな繋がりを生み出すアートプロジェクトを進める社会派アーティスト。「ヒミング」（富山県氷見市）、「ゼロダテ」（秋田県大館市）など、地域再生型のサステナブルアートプロジェクトを多数展開。2010～2023 年、公設民営のアートセンター「アーツ千代田 3331」（東京都千代田区）を運営。2021 年から国際芸術祭「東京ビエンナーレ」を立ち上げ、千葉国際芸術祭 2025 の総合ディレクター。

⑫ (仮称) 美術館デジタルアーカイブ活用プロジェクト ※調整中

千葉県美術館が所蔵するコレクションの保全と記録、研究を目的として、これまでデジタル画像の生成とアーカイブ化が進められております。

これらの記録画像を市民に向けて活用するために、美術館が保有するデジタル画像を活用し、現代のデジタル技術を用いてプロジェクト実施を検討しています。

●開催概要

タイトル：(仮称) 千葉県美術館デジタルアーカイブ活用プロジェクト

会場：千葉市内、アーツフィールド内 ※調整中

日時：令和6年12月～令和7年2月 ※調整中

内容：美術館が保有するコレクションのデジタル画像を活用し、それらの作品を現代のデジタル技術を用いながら今の時代に生きる市民に向けて公開し、美術館と市民の関係を深めるプロジェクトを展開します。

対象：千葉市民の方々

●令和7年度展開(予定)

令和7年度も継続し、同プロジェクトを実施予定。

⑬ 中村ディレクターが会いに行くシリーズ

中村総合ディレクターが、千葉市を拠点とする企業や市内の公共機関など、市内で活躍する様々な分野の方々と、千葉市に対する思いや期待などについて、対談を行います。

●実施のねらい

これまで市内各所をリサーチするなかで、お会いした企業や公共機関の方々からは、日々の仕事のやりがいとともに、芸術祭への期待や千葉市についての好きなどところはもちろん、もっとこうなっていってほしいなどの熱い思いを聞かせていただく機会が非常に多かったことを踏まえ、これを一つのアートプロジェクトとして広く展開していくこととしました。

市内で活動されている方々の声を広く発信することで、地域因子としての企業や人材の活躍について、多くの市民に知っていただけるとともに、千葉市の未来についてみんなで考えていく機会としていきます。

●開催概要

会 場：ゲストごとに適切な場所を設定

日 時：随時実施中

対談予定者：市内で事業を展開する企業や公的機関の長など

●令和7年度展開(予定)

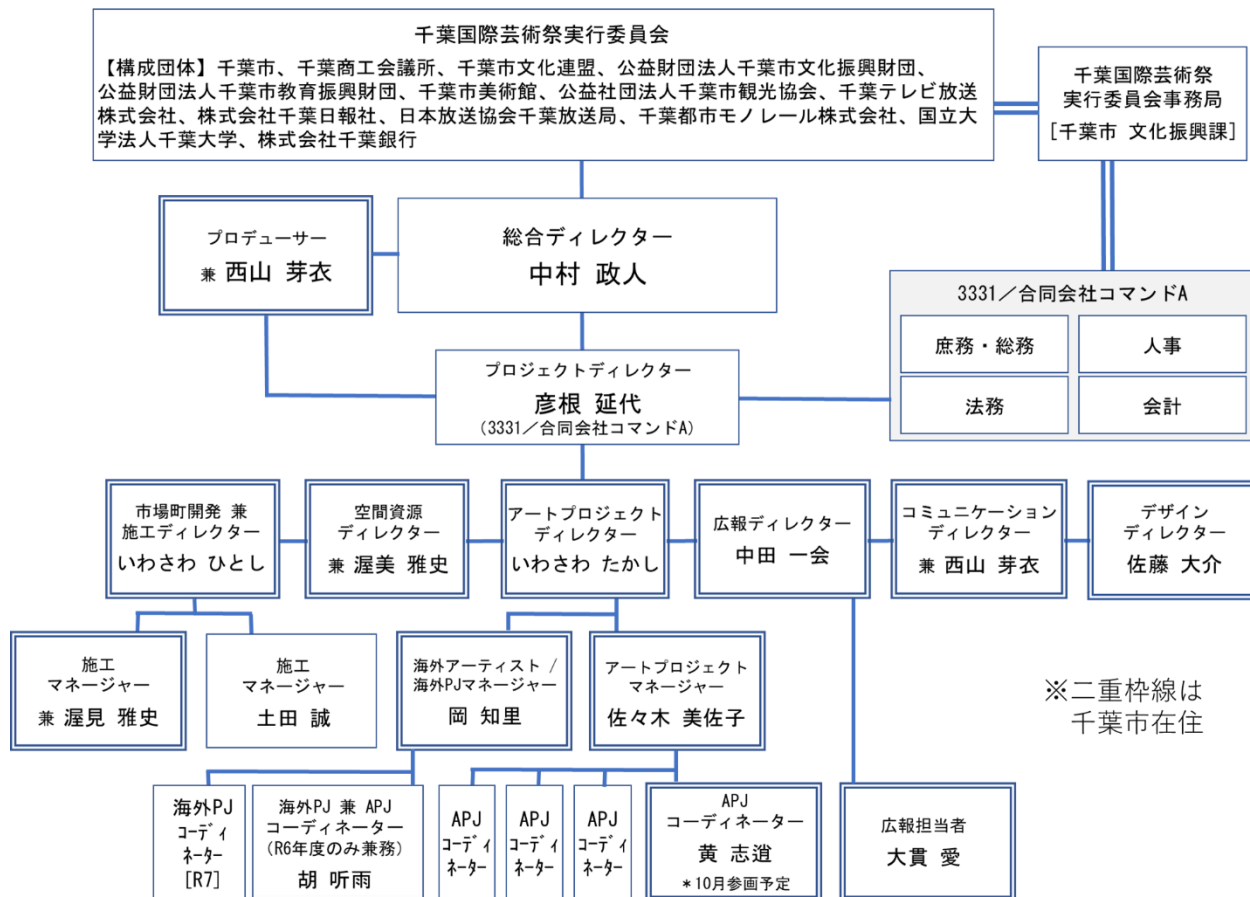
引き続き、多くの方々と対談させていただき、その様子を動画等で記録し公開していきます。



千葉市動物公園 館長と（初面会時の写真）

4. 運営体制・中心メンバー（ディレクター・マネージャー）

千葉国際芸術祭 2025 [Chiba City Arts Triennale 2025] 組織図



総合ディレクター 中村 政人

アーティスト／東京藝術大学美術学部教授・副学長

1963 年秋田県大館市生まれ。

1993 年「The Ginburart」（銀座）、1994 年の「新宿少年アート」（歌舞伎町）でのゲリラ型ストリートアート展。秋葉原電気街を舞台に行なわれた国際ビデオアート展「秋葉原TV」（1999～2000）、「ヒミング」（富山県氷見市）（2004～2016 年）、「ゼロダテ」（秋田県大館市）（2007～2019 年）など、地域コミュニティの新しい場をつくり出すアートプロジェクトを多数展開。

1997 年よりアート活動集団「コマンドN」を主宰。2010 年民設民営の文化施設「アーツ千代田 3331」（東京都千代田区）（2010～2023 年 3 月閉館）を創設。地域に開かれたアートセンターとして、約 13 年間運営を行う。

2001 年第 49 回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館に出品。マクドナルド社の CI を使ったインスタレーション作品が世界的注目を集める。

2020 年より「東京ビエンナーレ」の総合ディレクターを務める。

著書に「美術と教育」（1997）、写真集「明るい絶望」（2015）、「新しいページを開け!」（2017）、「アートプロジェクト文化資本論:3331 から東京ビエンナーレへ」（2021）。

平成 22 年度芸術選奨受賞。2018 年日本建築学会文化賞受賞。



【ディレクター／マネージャー】

●プロジェクトディレクター 彦根 延代



Photo by 池田晶紀

2017年より合同会社コマンドA（屋号「3331」）に参加。現在同社にてアーツプロジェクト事業部マネージャーを務める。同社が運営し2023年3月末で閉館したアートセンター「3331 Arts Chiyoda」では、若手アーティスト支援事業の一貫で行われた「3331 ART FAIR」や若手作家の個展シリーズを担当したほか、自主企画展を複数担当。コマンドA 参画以前は、美術館学芸員、パブリックアート企画制作、インキュベーション企業でのアートビジネスの立ち上げに携わるなど、アート（アーティスト）と社会を繋げる活動に一貫して取り組んでいる。女子美術大学非常勤講師（2023年～現在）。

●プロデューサー 兼 コミュニケーションディレクター 西山 芽衣（千葉市在住）



1989年、群馬県生まれ。千葉大学工学部建築学科を卒業。大学時代から千葉市に暮らす。2012年にまちづくりの企画プロデュースを行う（株）北山創造研究所に入社。西千葉の地域活性化プロジェクトを担当する中で2014年に「HELLO GARDEN」「西千葉工作室」の企画・立ち上げを行う。場づくりに継続的に関わりたいと思い、2015年に「HELLO GARDEN」「西千葉工作室」の運営母体であるマイキーへ移籍。企画・コンテンツ開発・アートディレクション・人材育成など幅広いスキルを活かして、西千葉のみならず日本全国で生活者の日常の舞台となる場づくりと人々の創造的な活動のサポートに取り組む。

●デザインディレクター 佐藤 大介（千葉市在住）



2007 年に株式会社スタート トゥデイ(現 ZOZO)に入社。Zozotown のサイトデザインを始め、アプリデザイン、プロモーションなど多岐に渡りデザインを担当。2017 年から ZOZOSUIT のデザインや UI/UX、プロモーション、また ZOZO のプライベートブランドの様々なデザイン領域を担当する。2020 年よりブランディングデザイン部ディレクターとして、ZOZO の CI に関わるデザインを担当し、地域に向けたコモンズを併設するオフィス、Zozostudio のデザインや、全米 PGA ツアー ZOZO CHAMPIONSHIP のクリエイティブディレクション、千葉市と連携した幕張ビーチ花火フェスタの VI デザイン、また地域のお祭りや文化祭のポスターデザインまで、さまざまなデザイン領域で活動。また、デザインコレクティブ Coutworks.com を主宰し、枠にとらわれない様々なデザイン活動も行う。主な受賞歴として、アジア太平洋広告祭 ADFEST、日本雑誌広告賞、JPM Pop Creative Award、千葉市都市文化賞など。

●アートプロジェクトディレクター いわさわ たかし（千葉市在住）



1978 年千葉県千葉市生まれ、武蔵野美術大学短期大学部卒業。「岩沢兄弟」の弟。2002 年有限会社バッタネーションを兄とともに設立。コンセプト設計からディレクションを担当。2009 年、東京日本橋にライブ配信に対応したキッチン付きイベントスペースを開設。その後「KOIL（柏の葉オープンイノベーションラボ）」「かみす防災アリーナ」の家具制作、アートプロジェクト「HAPPY TURN / 神津島」の拠点づくりなどに参加。芸術祭には、アートユニット「KMSI」のメンバーとして「KENPOKU ART 2016」に参加。「岩沢兄弟」として「瀬戸内国際芸術祭 2022」「百年後芸術祭 2023」に参加している。2022 年には千葉市美術館「つくりかけラボ 06 岩沢兄弟 | キメラ遊物園」で作品を発表。

●市場町開発 兼 施工 ディレクター いわさわ ひとし（千葉市在住）



1974 年千葉県千葉市生まれ、多摩美術大学建築学科卒業。「モノ・コト・ヒトのおもしろたのしい関係」を合言葉に、拠点づくりを手掛けているクリエイターユニット「岩沢兄弟」の立体物担当。大学在学中より、建築事務所で働き、デザイナーとして活動をはじめ。空間・家具などの立体物設計、アナログとデジタルを活用したコミュニケーション設計が得意。オフィス空間等のデザインのほかプロダクト開発やワークショップ等も数多く手がけ、近年ではアート領域にも活動を広げる。「瀬戸内国際芸術祭 2022」「百年後芸術祭 2023」に作家として参加。2022 年には千葉市美術館「つくりかけラボ 06 岩沢兄弟 | キメラ遊園」で作品を発表。

●広報ディレクター 中田 一会（千葉市在住）



1984 年生まれ、2017 年より千葉市在住。武蔵野美術大学芸術文化学科卒業。2007 年～2010 年、東証一部上場の出版社にて経営企画室 IR（投資家向け広報）担当、社内報担当、女性向け出版部門の企画編集を担う。2010～2015 年、(株) ロフトワークの PR 兼コミュニケーションディレクターとして勤務。2015 年～2018 年、(公財) 東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京に在籍。アートプロジェクト事業で中間支援と情報発信を担う。2018 年、千葉市にて「きてん企画室」を設立。2021 年、(株) マガジンハウスのウェブマガジン「こここ」編集長として媒体を創刊。文化、福祉、地域の広報・編集を手がける。

●空間資源ディレクター 兼 施工マネージャー 渥美 雅史（千葉市在住）



1984 年三重県生まれ、千葉市在住。東京藝術大学大学院彫刻専攻修了後、地方公務員を経て千葉大学大学院専門法務研究科修了。その後、アート事業会社にて越後妻有大地の芸術祭、瀬戸内国際芸術祭、百年後芸術祭などの地域芸術祭でアートディレクション・アート法務担当として従事。また、美術館やアーティストのアートインスタールの設計・施工管理も行う。現在は独立し、全国のアート関連施設・企業・アーティストと展覧会やアートプロジェクトの企画・制作を行い、アートの実現をサポートしている。

●アートプロジェクトマネージャー 佐々木 美佐子（千葉市在住）



多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業。食品メーカー宣伝部に在籍し、クリエイティブ部門の責任者を担う。パッケージデザインや CM 制作など消費者とメディアの接点の変遷に合わせたコミュニケーションに取り組んできたが、このたび一念発起し、AP マネージャーの道に。千葉市に暮らすようになって 30 年目を迎える 2025 年に芸術祭に関われることに喜びを感じ、企業での経験を活かして地元で恩返ししたいと考えている。

●海外アーティスト／海外 PJ マネージャー 岡 知里（千葉市在住）



「感動体験を提供し、人々を幸せにする」というミッションのもと、1996 年の留学をきっかけに、オーストラリアと日本の架け橋となる留学アドバイザーとしてシドニーで活動。2009 年に千葉へ移住後、子どもたちに英語の楽しさを伝える【オカチリ英語でマジックショー】をスタートさせ、地域に根ざした活動を展開。2018 年に再びシドニーへ戻り、国際教育交流に注力。現地校手配等のオーダーメイド留学、スタディーツアー、1 日体験プログラムなど、一人ひとりのニーズに合わせたサービスを提供。2024 年千葉へ戻り、これまでの経験を活かし、海外からのスタディグループの受け入れや、英語イベント企画&運営などを行っている。

●施工マネージャー 土田 誠

千葉県習志野市在住。武蔵野美術大学建築学科卒業。

岩沢兄弟とともに、東京アートポイント計画「HAPPY TURN／神津島」の拠点「くると」を設計。3331 Arts Chiyoda 内「STUDIO302」の設計施工を担当。目の前にあるものとそれにまつわることを手掛かりに、建築とその周辺をデザインしている。

【コーディネーター】

●広報担当 大貫 愛（千葉市在住）



1987 年生まれ、栃木県出身。茨城大学人文学部社会科学科卒。卒業後は旅行業界にて主に海外旅行手配業務に従事。BtoB と BtoC どちらの事業にも携わり、個人旅行から MICE 関連ツアーまで幅広く経験。海外でも経験を積みたいという気持ちから、2016 年よりベトナムのランドオペレーター会社に勤務する。ベトナム滞在中に日本語教育に興味をもち、2019 年からはベトナムの公立中学校で日本語クラスのアシスタントとして活動。コロナ禍の 2020 年に帰国し、縁あって千葉での暮らしをスタート。現在は株式会社マイキーに所属し、これまでの経験を総合的に活かしながら地域活性プロジェクトに取り組んでいる。

●海外アーティスト／海外PJ 兼 アートプロジェクトコーディネーター 胡 昕雨（こ きんう）



1998 年生まれ、中国浙江省出身。女子美術大学大学院アートプロデュース研究領域卒業。大学時代はプロダクトデザインの勉強のため台湾で過ごし、その後日本に渡りアートプロデュースを学ぶ。学生時代から多様な芸術活動に積極的に参加し、アーティスト・イン・レジデンス（AIR）プロジェクトにも深く携わり、その経験を通じて制作者としての自身の視野を広げると共に、相対する様々なアーティストへの理解も深めてきた。自らの仕事を通じて、よりドラマティックな反応を引き起こし、プロジェクト（アーティスト）の物語をより感動的なものにしたいと考えている。また、観客の体験も重視し、観客自身が鑑賞にとどまらず芸術に参加し、楽しめるような場作りにも力を注いでいる。

5. 広報

(1) 広報活動の目標

- ① 千葉国際芸術祭の魅力を市内外の多くの人に届ける
市の資源を活かした創造的なプロジェクトや、多様な価値観や視点を投げかける体験など、千葉国際芸術祭の魅力を広く発信し、集客を図ります。
- ② 千葉国際芸術祭への市民参加を促す
アーティストと市民が共に創り上げていく市民参加型芸術祭であることを強く発信し、市民参加を促します。
- ③ 千葉市のイメージ向上に寄与する魅力を発信する
千葉市民の誇りとなり、地域に目を向けるきっかけとなるように、市の魅力が伝わる情報発信を行います。

(2) 広報活動における基本方針

- ① 本会期に向けた長期的な視点で芸術祭の認知拡大を目指す
千葉国際芸術祭は、複数年に渡り長期間展開していく芸術祭であり、プロジェクトと併行した継続的な広報が求められます。プレ会期から本会期に向けて、継続的に市内外の多くの集客を図るため、長期的な視点で多面的な広報を展開し、芸術祭の認知拡大を図ります。
- ② 市民参加型の芸術祭であることを強く発信する
千葉国際芸術祭は、アーティストと市民が共に創り上げていく市民参加型芸術祭を目指しています。多様な市民が広く、気軽に参加できる市民参加型芸術祭であることを強調し、市民参加を促すための広報を展開します。
- ③ 多様なプロジェクトを千葉国際芸術祭として一体的なイメージにまとめ上げる
千葉国際芸術祭は、場所も内容も多様なプロジェクトを長期間展開していく芸術祭です。各プロジェクトの情報に関連を持たせ、千葉国際芸術祭としての一体的なイメージを確立します。

④ アクセシビリティや社会的公正さに配慮した情報提供を実施する

千葉国際芸術祭では、多様な主体の尊重とつながりの創出を重視したプログラムを実施していきます。年齢や性別、障害の有無や国籍に関わらず、多様な人が芸術祭情報にアクセスし、楽しみ、尊重されるための仕組み・場づくり・情報保障を行います。

⑤ 芸術祭の持続可能性に寄与する知見共有・記録を行う

千葉国際芸術祭がトリエンナーレ（3年毎の定期開催）であることを想定し、独自のメディアリストや、関係者のデータベースなど、継続開催に寄与する知見共有やアーカイブ作成を行います。

（3）広報基本戦略（広報ターゲットの考え方）

“総花的”ではない、4つの関心事別セグメントに合わせた戦略的情報発信

千葉市民・近郊の生活者 生活している地域におけるイベント／場所／活動に「いいね！」と共感し、主体的に参加したいと思える情報を届けます。	広域のアートファン 芸術祭や美術館展覧会などに日頃から関心が高い人々へ向け、「アートプロジェクト」を主眼におく新しい形の芸術祭であると注目し、参加・拡散したくなる情報を届けます。	広域のソーシャルファン 福祉、まちづくり、居場所づくりなどの社会的テーマに関心のある人が、「地域社会×アート」の新たな取り組みだと肯定的に捉え、応援したいと思える情報を届けます。	海外のアートファン／来日観光客 世界のアートイベントに関心の高い海外のアートファンや来日観光客が国際芸術祭の開催を知り、実際に足を運び、千葉市の魅力に気づくような情報を届けます。
---	---	---	---

(4) 広報施策の詳細

情報発信を行うメディアを3グループに分け、スムーズかつ多面的な運用を実現します。

	メディア種別		メディア種別ごとの運営／アプローチ方針
本部運営メディア	千葉国際芸術祭事務局が直接運営し、総合的な公式情報を発信するオウンドメディア	【ウェブサイト】 千葉国際芸術祭2025公式ウェブサイト 【SNS】 Instagram、X、LINE、Facebook、YouTube等 【その他】 千葉国際芸術祭全体のポスター、フライヤー、リーフレット、カタログ、アプリ、イベント等	千葉国際芸術祭2025公式ティザーサイト（2024年10月～12月） 本サイトが公開されるまでの仮サイト。主に芸術祭概要・最新情報・公募情報を扱う [方針] ・芸術祭への期待を高めるため、ビジュアルやコンセプトを提示しメッセージを伝える ・芸術祭への信頼を高めるため、クレジットやプレスリリース等公式情報を的確に公開する
			千葉国際芸術祭2025公式ウェブサイト（2025年1月公開予定） 芸術祭の情報が網羅され、「このサイトを見れば理解できる」という情報発信の本拠地 [方針] ・芸術祭への期待を高めるため、ビジュアルやコンセプトを提示しメッセージを伝える ・芸術祭への信頼を高めるため、クレジットやプレスリリース等公式情報を的確に公開する
			・千葉市をどう巡るべきかがわかるMAP情報やエリア情報等、地域情報を丁寧に紹介する ・参加アーティストや関連プログラム等の詳細情報が網羅され、期待感を持てる内容を発信する ・開催レポートや運営ブログなど、芸術祭プロセスもコンテンツ化し、ライブ感のある情報を提供する <u>公式SNS（2024年10月～）</u> 各SNSプラットフォームの特性を活かし、コンパクトかつタイムリーな情報提供をすることで千葉国際芸術祭に対する認知度と期待感を高め、ファンや応援者を増やすことに寄与する
プロジェクト運営メディア	各アートプロジェクトの運営チームがイベント情報などを発信するメディア	【SNS】 Instagram、X、LINE、Facebook、YouTube等	[方針] ・使用するメディアプラットフォームや運営方法はプロジェクトの性質や体制に合わせてプロジェクトごとに決定し、柔軟な情報発信を行う ・千葉国際芸術祭の関連企画であることを明示するため、基本情報の掲載ルール（ハッシュタグの使い方、公開情報の扱い方、クレジット表記の仕方等）を別途取り決める
外部メディア	芸術祭事務局や関連プロジェクト以外の、外部団体が運営するメディア（行政メディア、商業メディア含む）	【千葉市関連メディア】 市報、千葉市公式SNS（LINE、X、Facebook、YouTube等）等 【外部商業メディア】 テレビ、ラジオ、新聞、ウェブメディア、フリーペーパー、SNSインフルエンサー等	[方針] ・各メディアが求める情報を定期的に提供できるよう、「プレスリリース」や「記者会見」はもちろんのこと「情報提供」を細かく行う関係性を築く

(5) ターゲットごとの広報施策の展開スケジュール

期間	令和6年度(2024年度)				令和7年度(2025年度)			
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
芸術祭フェーズ	準備期間		プレ会期		本会期		コア期間	
全体			ティザー WEBサイト SNS発信 ◇ 記者会見 (10月21日)	公式WEBサイト ポスター掲示・フライヤー配布				アーカイブ
千葉市民・近郊の 生活者向け			日常投稿を重視したSNS投稿、定期的なLINE配信、SNS広告等 ローカル媒体・マスメディアでの掲載アプローチ フライヤー・ポスターなど 印刷媒体の配布・掲示					
広域の アートファン向け			WEBサイトにおける総合ディレクターによるメッセージ発信等 カルチャー・美術系メディアへの掲載アプローチ、 批評家・美術専門家の招聘・ツアー					
広域の ソーシャルファン 向け			WEBサイトにおける社会性の高い企画の 解説記事等の公開 福祉や社会的テーマを扱う専門メディアへの 掲載アプローチ等					
海外の アートファン／ 来日観光客向け			WEBサイトにおける英語での情報発信 参加海外アーティストを通じた SNS発信					

6. 企業協賛・寄附

(1) 基本方針

本芸術祭の開催趣旨に賛同する企業の協賛・寄附を得ることで、強固なパートナーシップの構築に繋げ、芸術祭と社会とのつながりの創出・拡大を目指します。

(2) 取組内容

本芸術祭の開催趣旨に賛同する県内外の企業に対しアプローチします。

また、より多くの協賛・寄附を得られるよう、公式ホームページ、チラシ、ポスターなどの広報媒体への社名・ロゴの掲出など特典メニューの拡充を検討します。

7. スケジュール

		10月	11月	12月	1月	2月	3月
アートプロジェクト	千葉国際芸術祭2025プレ企画 ラウンドテーブル02	●					
	アーティスト藤 浩志プロジェクト かえっこパザール	●	●				
	アーティスト西尾 美也プロジェクト (仮称)ちびっこテラーワーク ショップ			時期調整中			
	アーティスト栗原 良彰プロジェクト わたしの千葉市！テーマパークの 模型を作ろう！	●					
	天馬船プロジェクト テスト航行		●				
	先生たちの アートアンデパンダン展	募集				展示	
	(仮称)千葉市動物公園 プロジェクト			時期調整中			
	(仮称)R357プロジェクト		時期調整中				
	公募プロジェクト【部門1】 海外作家アーティスト編	募集			選考 /対象者 決定	プラン検討 /決定	
	公募プロジェクト【部門2】 千葉市若手アーティスト編	募集			選考/ 対象者決定		
	「アーツうなぎ」 プロジェクト	事務拠点として部分的に開設(R6年度)					
	千葉県こども病院アートプロジェクト こども病院に芸術祭がやってくる！ 病院でアートプロジェクトを展開するた めのプレ・ワークショップ			時期調整中			
	(仮称)美術館デジタル アーカイブ活用プロジェクト			時期調整中			
	中村ディレクターが 会いに行くシリーズ			時期調整中			
広報	広報	ティザーWEBサイト			公式WEBサイト		
		SNS発信					

参考資料 1

実行委員会委員名簿

No.	団体	役職	氏名
1	千葉市	市長	かみや しゅんいち 神谷 俊一
2	千葉商工会議所	会頭	さくま ひでとし 佐久間 英利
3	千葉市文化連盟	会長	いその かずよし 磯野 和美
4	公益財団法人 千葉市文化振興財団	理事長	ししくら かずみ 穴倉 和美
5	公益財団法人 千葉市教育振興財団	理事長	いいだ まさお 飯田 正夫
6	千葉市美術館	館長	やまなし えみこ 山梨 絵美子
7	公益社団法人 千葉市観光協会	会長	あだち ひさお 足立 久男
8	千葉テレビ放送株式会社	代表取締役社長	あおやぎ ひろじ 青柳 洋治
9	株式会社千葉日報社	代表取締役社長	なかもと ひろゆき 中元 広之
10	日本放送協会千葉放送局	局長	つなしま こうぞう 綱島 浩三
11	千葉都市モノレール株式会社	代表取締役社長	こいけ ひろかず 小池 浩和
12	国立大学法人千葉大学	学長	よこて こうたろう 横手 幸太郎
13	株式会社千葉銀行	地方創生部長	おがわ としゆき 小川 利幸
14	千葉市教育委員会	教育長	つるおか かつひこ 鶴岡 克彦
15	千葉市市民局	局長	なす かずよし 那須 一恵
16	千葉市経済農政局	局長	ふじしろ まさふみ 藤代 真史
17	千葉市会計室	会計管理者	おりはら りょう 折原 亮

部会委員名簿

職	職位	氏名	期間
美術史家・美術評論家	議長	水沢 勉	令和5年3月30日から 千葉国際芸術祭 実行委員会が解散する日まで
千葉市美術館 館長	副議長	山梨 絵美子	同上
独立行政法人国立美術館 国立アトリサーチセンター 主任研究員		稲庭 彩和子	同上

参考資料2 実施済プロジェクト

令和5年度(一部、令和6年度)のプレ期間内におきまして、各種プロジェクトを実施しました。

ここで展開したアートプロジェクトは、令和6年度、そして令和7年度の本会期におきまして、更にプロジェクトの内容を成長させ、展開していきます。

- | | |
|--|---|
| 1. アートプロジェクト：令和6年02月28日（水）「ラウンドテーブル01」 | 会場／千葉市美術館 |
| 2. アートプロジェクト：令和6年03月09日（日）藤浩志 | 「かえっこ in 花見川団地」
会場／花見川団地商店街 |
| 3. アートプロジェクト：令和6年03月16日（土）西尾美也「くふうく」 | 会場／千葉市美術館 |
| 4. アートプロジェクト：令和6年03月17日（日）栗原良彰 | 「テーマパークの模型を作ろう！」
会場／千葉市美術館 |
| | 令和6年03月13日（水）～21日（木）「作品発表会」
会場／千葉市役所 |
| 5. アートプロジェクト：令和6年03月27日（水）～04月07日（日） | 「Slow Art Collective Chiba」
会場／千葉センシティ |
| 6. スクーリング： | 令和6年02月28日（水）栗原良彰 |
| | 「テーマパークの模型を作ろう！」
会場／千草台小学校アフタースクール |